

2/11 ぐんま教育のつどい 2026



前橋市大手町 3-1-10

群馬高教組

027-231-2784

ghtu@educas.jp

http://www.ghtu.org/

テーマ「ぐんまの公立高校は、共学？別学？」

ぐんま教育のつどい2026が2月1日(建国記念の日)に県勤労福祉センター(前橋市野中町)で開催されました。「ぐんまの公立高校は、共学？別学？」をテーマに、ぐんま公立高校男女共学を実現する会(以下、ぐんま共学の会)代表、坂本祐子さんに講演いただき、会場参加者のみなさんと意見交流しました。全体の参加者は25名でした。以下、概要報告になります。

五つのテーマ

群馬の統廃合・共学化の歴史を振り返る

水田委員長の開会あいさつに続き、教文部長(萩原)からこれまでの統廃合・共学化と公立女学校創設、1948年の高校三原則などをパワポでざっと振り返りました。その後、1時間にわたり坂本代表から講演をいただき、途中休憩をはさみつつ、質問紙による質疑応答、さらには会場参加者の意見交流という流れで進行しました。

44ページ分のパワポ資料は4分割6枚の冊子にコンパクト化され、坂本さんご本人のプロフィールに続き、5つのテーマ(以下、①〜⑤)にまとめられていました。

- ①この1月で発足26周年を迎えたぐんま共学の会の活動内容では、設立に至るまでの経緯、県公式ツイッターや県知事ブログ、マスコミでも報道された山本県知事への要望書提出や平田教育長訪問などが語られました。
- ②共学化に関する群馬県の動向では、主に県教委の動きを中心に、2000年8月当初「2002年度から10年で」の推進計画・基本案が2001年には早くも「慎重に検討」と機運が後退したまま、現在の動きにながっている。公立高校別学数の近県比較では、埼玉12、群馬10、栃木8の順で並び、高校数に対する別学率では、群馬が16.4%で一番高い。
- ③大学・高校生の意識調査データは興味深く、県外出身者の目から見れば、「〇〇女子高出身」という自己紹介が奇異に映るケースや、多様性重視の時代に性別で分ける不自然さが浮かび上がりました。確かに「〇〇男子高校」という名称には、普段聞きなれない違和感を感じます。ほかに共学・別学をテーマにした博士論文も紹介されました。高崎高校新聞部が近隣3校に対して行ったアンケート調査結果からは、別学在校生は共学が自然と捉えている様子も伺えました。
- ④ジェンダー平等・教育では、「ジェンダーの縛り」「ジェンダーバイアス」からどう解放され、自由になるべきかという視点が語られました。これは単に共学・別学だから起こり得る問題というのではなく、個々が選択し所属したはずの集団・組織の中で「自分らしさ」をどうやって構築すべきかという共通課題です。性の多様性とも絡め講演後の意見交換でも多岐にわたる会場発言で広がりを見せました。



テンポよい語り口で講演する坂本さん(上)
共学化の歴史を振り返る萩原教文部長(左)



あいさつする水田委員長

